

令和6年度
泉佐野市立児童発達支援センター
事業所における自己評価総括表
(保育所等訪問支援事業)

令和7年4月

泉佐野市立児童発達支援センター
保育所等訪問支援事業
泉佐野市子育て支援課

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	泉佐野市立児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	7年 2月 12日		7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	7年 2月 12日		7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	7年 2月 12日		7年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	11 (回答数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当センター内に公認心理師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等の専門職の配置、また、相談支援事業所の併設により、ニーズに対して必要な支援内容の検討・提供について連携を図っています。	支援内容に悩んだ時には、センター内で専門職員に相談、検討し、訪問先や保護者に伝えるようにしています。	センターの多職種職員と相談、共有しながら支援の幅を広げていきます。
2	市内の通所支援事業所対象の連絡会を年3.4回開催しており、情報共有や意見交換など行うことができています。	利用者のニーズを把握したうえで、必要な協議内容を支援者間で出し合い、顔の見える関係の中で事例検討や研修会を開催しながら、連携を図っています。	課題に対しての対応や取り組みの結果を検証し、今後の支援につなげていくよう努めます。
3	市内で関わっている子ども・保護者・支援者のニーズや現状に沿った内容の研修会を専門職の意見も含め企画、実施しています。	市内の指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業所及び障害児通所支援事業所・認定こども園・保育園・幼稚園・小中学校・支援学校等職員に児童発達支援センター主催研修の案内をし、支援に対する共通言語を持つことができるように意識して取り組んでいます。	研修で受けた内容を保育所等訪問支援で活かしていけるよう、子どもの姿と照らし合わせ、訪問先職員との共通理解を大切に伝えていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援のニーズは増えてきていますが、2名の訪問支援員が他の業務と兼務のため、訪問支援を提供できる人数に制限があり、すぐに対応できないことがあります。	訪問支援を必要な児童に必要な時期に提供できる訪問支援員の体制作りが必要であると考えます。	・センター内の他の業務を担いながらも円滑に訪問支援業務を遂行できるよう、担当職員間の連携を図り、情報の共有を行いながら、担当が固定でなくても対応できるようにしています。 ・訪問支援員の増員については、地域支援業務を含め所職員1名増員予定です。
2			
3			